

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社プレストエデュケーション
施設名	かたつむり保育園野方
報告者（役職）	高田 知実（主任）
住所・連絡先	〒165-0027 東京都中野区野方 6-30-24 永山ビル
	☎ 03-5356-8686
	E-mail katatsumuri.nogata@gmail.com

○タイトル（保育計画）

デッドスペースを有効に利用した絵本コーナー

○主な助成備品

絵本（0歳児～2歳児用）、棚用木材、取手、留め具
ストッパー付きタイヤ等

1. 保育計画策定の目的

合同保育やイベントなどでも使用する手前の幼児室には、備え付けの棚が高いところにしかなく、給食用のダムベーターの下のデッドスペース（縦65.5cm 横116cm、奥行き80cm）に、ブロックなど1、2歳児が良く使用する玩具をプラスチックケースに入れて奥にしまっています。それを隠すようにカラーボックスを本棚にして置き、絵本コーナーにしているような状態です。玩具を取り出す時には、子どもたちが周りにいる中、重いカラーボックスを引っ張り出さなければならず、危険が伴い、狭いスペースに置くこともできません。

そこで、今使っているダムベーターの下のデッドスペースを手作りの玩具入れ付き本棚にリフォームし、（既製品でサイズがぴったりなものがない）絵本や玩具も増やし、子どもたちが落ち着いて、本を取り出して読むことができる絵本コーナーを作り、その他のコーナーと合わせて充実したものにしたいと思います。

2. 具体的な実施内容

キャスター付きの二段の本棚にしたことで、上の段に1、2歳児の大きい絵本を並べ、下の段に0歳児用（赤ちゃん用）の絵本を並べる事により、絵本が前より分かりやすく、取りやすくなり、落ち着いて取り出して読む事ができています。絵本コーナーが充実したことで、絵本への興味がより一層芽生え、自分で好きな絵本を選んで読んだり、年下の子へ読み聞かせする姿も見られるようになりました。

また、カラーボックスを動かして、玩具を取り出すという作業がキャスター付になった事で楽に取りだせるようになりました。子どもたちが周りにも、さっと出し入れができるので、危険が少なくなりました。以上の事から、子どもたちが前より絵本を読み、楽しんでいる姿が見られます。

<実施前>

1. デッドスペースが多く、子どもが簡単に入りてしまい、とても危険な状態



<実施後>

2. サイズぴったりの棚が設置された事により、絵本が分別できる。



3. 下段に0歳児用の絵本を設置する。



4. 0歳児が着座した状態で、絵本の出し入れが出来る。



3. その成果と評価

- きちんとしたサイズの棚が設置されることで、玩具の出し入れがスムーズになり、落ち着いた絵本コーナーになった。
- 本棚が大きくなり、下の段に0歳児用の本、上の段に1、2歳児の本を種類別に分類しておいたことで、より一層充実した絵本コーナーになった。
- 絵本コーナーが充実したことで、絵本への興味がより一層芽生え、自分で好きな本を選んで読んだり、年下の子へ読み聞かせする姿も見られるようになった。

4. 今後の課題と展望

- 保育者と一緒に絵本を見ながら、絵本の内容を動作や言葉で表したり、歌を歌ったりなどして、模倣活動を楽しめるようにしていきたい。
- たくさんの絵本に触れることにより、新しいものに驚いたり、不思議に思うなど感動する体験が広がるようにする。
- 表現しようとする意欲を高め、結果にとらわれず、一人一人の子どもの創意工夫を認め、創造的な喜びが味わえるようにする。(生活発表会)

以上